

(仮称)鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ

第2回ワークショップ会議録

日時：平成23年10月15日（土） 10：00～12：00

場所：鎌倉市役所 811 会議室

参加者：公募市民：16名 関係団体：12名 計：28名 傍聴者：30名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤潮研究室）

事務局：鎌倉市市民経済部産業振興課

花上課長、加藤課長補佐、根本事務職員

（財）漁港漁場漁村技術研究所

大塚職員、田島職員、早川職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生 4名

プログラム

第1部

- ①第1回ワークショップで出された意見
- ②第1回ワークショップで出された主な論点
- ③ワークショップの主旨、進め方
- ④前提条件の整理・確認

第2部

- ⑤ワークショップでの達成目標の明確化
- ⑥グループ作業の結果発表と意見交換

終わりに

- ⑦次回の開催予定

配布資料

第2回ワークショップ 次 第

資料-1： 第1回ワークショップで出された意見

資料-2： 第1回ワークショップで出された主な論点

資料-3： （仮称）鎌倉地域の漁港にかかるワークショップとは？

資料-4： 前提条件の整理・確認 一覧表 ～Ver. 1～

参考資料： 第1回WSで出された傍聴者の意見

補足資料： アンケート用紙

事務局：只今より（仮称）鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ（以下「WS」という。）を開催いたします。本日のWSの予定ですが、皆様のお手元の資料の1枚目の次第をご覧ください。プログラムとして、第1部60分、第2部55分としています。第1部では①から④の資料の説明等がありますが、第1部の後に質疑応答の時間をとっています。第2部ではグループワーク（以下「GW」という。）を行い、最後に意見交換の時間を設けていますので、第1部の中で④の次に質疑応答の時間があるということをご了解いただきたいと思います。それではお手元の資料の確認をさせていただきます。（資料説明）

その他に、参考資料として第1回WSで出された傍聴者の意見を取りまとめたものがあります。最後に補足資料として「アンケート用紙」があります。このアンケート用紙につきましては、このWSの閉会后皆さんから回収させていただきたいと思いますので、ご記入をお願いいたします。以上が本日の資料です。

では、早速第1部に入りたいと思いますが、WSはファシリテータ（以下「FT」という。）の東京工業大学の斎藤先生と、FT補佐（以下「FT補」という。）の橋本さんに進行していただきます。

第1部

① 第1回ワークショップで出された意見

FT補：皆さんおはようございます。WSのプログラムの進行のお手伝いをしております橋本政子です。早速ですが第1回目のWSで皆さんに出していただいた意見を、お手元の資料-1と参考資料に整理させていただいていますので、そちらを見ていただければと思います。その前に今日初めて参加される方はどれくらいいらっしゃるでしょうか。お手を挙げていただければと思います。ちょっと内容が第1回目から2回目でまたステップアップしていますので、ついていけないという方がいらっしゃるかと思いますけど、今日もアンケート用紙、付箋を用意していますので、わからないことや思ったこと、意見をWSの途中でどんどん書いて残していただければ、また記録として残しますのでお願いします。では内容を説明します。細かいところは皆さんで読んでいただきたいと思います。前回出していただいた皆さんからの声、呟きであったり叫びであったりということを、全部私たちが目を通しました。そして耳を傾けて一つ一つ読み込ませていただきました。前は一緒にこの作業をしたかったのですが、時間が無かったので事務局でいくつかの論点を整理させていただきました。見ていただくとわかるのですが、質問やそれに対する答えがこの中に含まれているというのもあり、この中に解決の糸口が見出せそうなものもあります。でもそれ以上に、このWSの中で何から先に手を付けていったら良いかというのを整理したいために、この前は皆さんの声を拾わせていただきました。すごく短い時間の中で、しかも臨場感あふれる雰囲気の中で、これだけたくさんの意見を出していただいたことを本当に有難いと思っています。それを踏まえてプ

プログラムとしては、今日用意した資料-2 や資料-3 で、私から事務局に投げかけさせていただいて、いくつか宿題として出したものもあります。それについて順次説明をしていきたいと思っています。時間が無い中ですので、細かいところは手元の資料を見ていただきながら、話を聞いていただきたいと思います。WSのプログラムを作るにあたって、特に今日が山場だと思っています。WSをどう組み立てていくかというのを皆さんと一緒に真剣に考えたいと思っています。その中でどこから先に手を付けていくかということを、一つずつ確認して進めていきたいので、皆さんの意見を聞き取りながら進めていきたいと思っています。この1回目の声という目的はとにかく現場の声を聞きたかったということと、これを残りのプログラムにどう反映させていくか、できるだけ拾っていききたい、しかも、効率よく拾っていききたいという宿題が私たちには出されているので、そのためのアンケートや付箋なのです。このやり方がそもそもナンセンスという意見もいただいています。適宜、皆さんのご批判を真摯に受け止めて、毎回毎回新しいプログラムを作りたいと思っていますので、ご協力のほどよろしくお願いします。細かいところについては私からは省略しますので、わからないことがありましたら、最後の質疑応答の中で聞いていただければと思います。それでは、引き続きプログラムの第1部の②です。ここに出された課題を見ていただくとわかると思いますが、これをたった数回で本当にやれるのか。はっきり言って無理だと私は思います。でも、できるだけ拾っていききたい、そのためにどう整理したら良いかを、斎藤先生がまとめていますので、これから紹介したいと思っています。聞いていただきながら判らないところや意見を、どんどん付箋に書きながら聞いてください。

② 第1回ワークショップで出された主な論点

F T : 前回、実にたくさんの方々の様々な意見がありました。交通整理しないと議論はできないな、と考えましたので、いくつか項目立てをしました。今日は何について議論するのか皆さんに決めていただかないといけないのですが、F Tでもあり、一個人の立場でもある私からも提案をします。それについてもご意見をいただきたいと思っています。

前回のWSの参加者の論点について整理します。それを受けて今日の第2回をどう進めていったら良いか整理します。論点について紹介します。お手元の資料と前方のスクリーンに映している資料とでは後半が若干違っています。改良したものです。まず、一つ目はWSの設定の仕方で「これで良いのか、どうなっているのだ」ということです。二つ目は「議論の前提がよくわからない、議論のしようがない」というご意見をいただきました。三つ目は「そもそもこれまでどうやってきたのか、行政がどういう事情でこうなっているのか、事前情報がよくわからないので、情報不足である」というご意見。それから非漁業関係者から見たときに、「なぜ漁港が必要なのがよくわからない、説明をち

ちゃんと受けていない」こういうご質問もありました。それから「仮に漁港を造ったとすると、どういうデメリットが生ずるのか、そういうことに関する研究がないではないか」こういうご指摘がありました。「漁港建設が鎌倉市民や沿岸域住民にどういうメリットをもたらすのか、漁業者はメリットを受けるかもしれないが、それ以外の人たちはどんなメリットを受けるのか、それについてちゃんと説明してもらいたい」このような意見がありました。

例えば、一つ目の問題であるWSの設定の仕方については、回数だとか、組織編成だとか、議論の方法、それから市側の出席者はこのままで良いのか、そういう話がありました。それから二つ目の問題であるWSの議論の前提ですが、WSを含む漁港建設をめぐる今後の意思決定、つまり「意思決定プロセスはどのようなになっているのか、これまでの経緯も含めて、ここで何か決めたらそのとおりになるのか」そういうご意見。また、WSの議論のまとめ方、イメージです。どういふことを誰に提出するのか。三つ目は、行政が保有する事前情報をもっと出してほしい。例えば、「市政全体について漁港建設がどういう位置付けにあるのか、財政的にはどのようなになっているのか」といったようなことに関して高い関心があるようです。また四つ目として、漁業の現場から見たときに、このままの状態で継続した場合にどんな問題があるのかについてちゃんと知りたい、というご意見もありました。それから、問題点の克服方法というのは、例えば漁港建設しかないのか、というご意見もありました。それから、漁港建設というのは漁業者皆の総意なのか、こういう疑問もでてきました。五つ目ですが、漁港建設のデメリットはどのようなになっているのか、環境問題は大丈夫なのか、それから沿岸の市民生活には何か影響はないのか、眺望が失われるとか、臭いが強くなるとか、という質問です。それから海岸や浜辺を使ったり、サーフィンをしたりするということに関して、漁港建設はどんな影響を与えるのか。それから海岸景観について、漁港を造ると浜はもっときれいになるのか、そうじゃないのか、という話も出ました。六つ目は、漁港建設は鎌倉市民・沿岸住民にメリットを何かもたらしてくれるのか、こういう質問もありました。

これをどのような順序で、残された時間の中で議論していくのか、大変重要な問題です。ここで私の提案です。二つ目の問題がはっきりしないと他の問題もどう扱って良いのかわからなくなる、ということで、今日はWSを含む漁港建設をめぐる意思決定プロセスを確認したいという要望について市から説明を受けてはどうか。もう一つはこのWSで一体何をどこまで議論するのか、どうするのか、ということについて議論してはいかがでしょうか。これで皆さんに共通意識を持っていただけたら、本当にこの人数の構成設定で良いのかとか、もっと事務局に情報を出してほしいとか、そういったことが出てくると思います。まずはこの問題について今日、議論するということがよろしいかどうかを皆さんに伺いたいのですが、いかがでしょうか。違う問題の方が興味あるという方もいらっしゃると思うのですが、どうでしょうか。これからまず取り掛か

ったらどうかというご意見はありますでしょうか。

参加者：今までの流れとちょっと変わることを述べるかもしれませんが、港を建設することを前提で今議論している。3月11日の大震災以降、状況が変わって政府が使うお金が東日本大震災の方に利用されて鎌倉の港には回ってこないだろうという話もあるようだ。駄目なものをあたかもあるがごとく議論し合っただけ時間をかけて、最後は国の予算がないからやっぱり駄目でした、ということになるのだったら、まったく意味の無い気がする。答申案が出たのはそれ以前だろうが、前後で事情が変わっているのに、まるっきりそれを反映しないで過去のままにあるような形で議論して果たして良いのかどうかということを含めて、見直すことが現実にあるのではないかと思う。

F T：それを「(2)WSでの議論の前提に関する整理について」の問題の中に取り込んで議論しても良いと思いますが、よろしいですか。他にもこの(2)の問題、そもそもこのWSで何を議論するのか、どういう意味があるのかということについて、今日は話し合いたいと思います。

参加者：ちょっと言葉を説明していただきたい。「まとめ方のイメージ」という言葉を使っているが、それは別の言い方をすると、「総論・結論的なビジョン・構想」をどんなイメージで整理するのか。どんなイメージになるかという意味で「総構想のような、ジェネラルビジョン」を言っているのか。

F T：この言葉の意味はまだ議論が深まっていない段階で、こうしましょうということを決めたとしても、やっていくうちに少しずつ変わっていくかもしれない。今の所、大体こういう方向で議論しませんか、という大雑把なイメージをまず持ってもらって、そこからスタートしませんかということです。

参加者：それも良いが、出された意見、集約されたものを見ても、前提が何なのかわかりません。つまり、漁港を造りたいという動機、解決したい問題は何なのか。もしくは、実現したいことは何なのか、誰が何処にどう動機があるのか。例えば、金額提示などが載っているのは資料でいうと、1回目でいただいた資料-3の「鎌倉地域の漁業」だけです。組合員数・漁船隻数はあります。また、波で小屋が被害を受けているのがあるが、この被害はどのくらいの規模なのか。その辺がわからないと何も議論の前提が立たないと思います。これが1千万円の被害なのか、1億円の被害なのかで、何を考えたら良いのか変わると思う。この進め方の議論ですが、何をしたいのか、その前提をきちんと数字で示していただきたい、というのが多くの方の意見だと思います。それと同時に前提のきちんとした説明をしていただきたいと思います。

参加者：それは具体的なプランを提示する時には重要だと思います。まずは議論の進め方を最初に決めないといけないと思います。いきなり内容に入っても、色々話し合った後、じゃあどう決めるかという所で決め方がわからなくなると、じゃあ決め方から話しましょう、ということになってしまいます。まず、フレームワークを作った方が良いと思います。

参加者：わかりました。ただ、前提がはっきりしていないということを忘れないでいただきたいと思います。

参加者：F Tをバックアップします。そういう意見が前回出て紛糾してしまったので、今回はそうならないようにしていただきたいと思います。まず、このWSの位置づけがどうなのか、それを皆さんとここで確認しよう、今日はそこまでにしよう。この意見と私も同じ意見を持っています。とりあえずF Tの「(2)WSでの議論の前提に関する整理について」だけという提案に私は賛成します。

F T：それでは他にたくさん課題があるわけですが、まず、本日は(2)の問題について、皆さんに話し合っていただくということでよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。ではそのように進めたいと思います。

認めていただけることを想定して資料を作っております。それでは「WS議論の前提」「どうなっているのか」について、二つ整理しておきました。一つ目はそもそも、ここで何か決まったとして、あるいは何か意見書のようなものを提出したとして、それが市政の中にどう利用されるのか。仮に、反対や賛成を決めたとして「じゃわかりました。WSで決まったから必ずやります」とか「止めます」とか約束できるのか、という疑問がありました。二つ目はそもそも、どういうものをここで提出するのか。あるいは提出できるのか。これだけたくさんの意見の違いがある中で、まとまった意見が出せるのかどうか。こういうことにたいへん大きな疑問があるわけです。まず、最初に漁港建設をめぐる意思決定プロセスについて。つまりどういう手順で漁港建設をする、しないを決定するのか。WSはその中でどういう位置づけにあるのか、ということについてです。これは重要な問題ですので、市からお話いただきたい。賛成なら賛成、反対なら反対のとおり施策は決まるのか。それでは、このことについて鎌倉市がご説明します。

③ ワークショップの主旨、進め方

事務局：産業振興課の加藤です。先生から紹介がございましたが、お手元の資料-3をご覧ください。これは前回配布したものと同じですが、時間の関係で説明できなかった部分を含めて説明したいと思います。

資料-3の2ページをお開きください。意思決定の仕方、行政がどうするかということ、それからこのWSで取りまとめた意見や取り扱いが意思決定にどう反映されていくのか。まず私どもの考えを披露いたします。まず、WSで出されましたご意見は、原則として全て記録します。それは今回、事務局で整理させていただきます。これからどんどん意見が出てくる。それは随時追加して皆さんにご提示して配布していきたいと思っています。見ていただいたものにつきましては、市のホームページでも今後公開して、ここに参加されていない市民の方にも目を通していただきたいと思っております。

資料の下にフロー図があります。私どもの考え方は、例えば、鎌倉漁港対策

協議会（以下「漁対協」という。）など協議会形式のものをこれまでやってきましたが、それと並列のような並びで、今回はじめて市民参加型というWSを開催することにいたしました。しかし、WSの参加者は市民の一部の方です。そのため、この広報やWSのニューズレターのようなものを発行して、こういうことをやっているということを周知していくことで、市民の方からの意見がどんどん増えていくと思います。そういった市民の皆様からの意見、今までの漁港対策協議会やWSでの意見、そういったものを目安として、このWSが終わった時点で私どもが意見の集約、整理をして、今後、基本構想を立案していく時に「造る、造らない」「造るのだったらこういうもの」「もしできないのであれば、浜小屋はどうなるのか」というような方向性を見極めていくものです。市として、例えば「絶対造ってください」「こういう風にしてください」というよりも、まずは皆さんの意見を聞いてそれを整理していきたいと考えています。今はその段階だと思います。そうして、基本構想案を作ってまいります。当然ここに来て、意見をしていただいた方にはわかるのですが、それ以外の多くの市民の方は内容のわからないまま進んでいくので、当然、市民の皆様公表または説明をします。方法としては「市の広報かまくら」や「市のHP」、それから住民の皆様への説明会等々を織り交ぜながら、パブリックコメントというような形で機会をいただき、資料の下にあります市民の合意形成を図っていきたいと思っています。市民の合意形成が無いことには次のステップへ進めません。基本構想案ができて100%全員が賛成ということは正直あり得ないことですので、市民のご意見として、ある程度の合意が得られたと判断できましたら、次のステップ「基本構想の作成」へと進みます。この間にはいただいた意見で基本構想の案が一部変わったりすることなどはあると思います。また、その中の反映されなかった意見も公表しながら基本構想案を策定したい。その後、次のステップ、またその次のステップと、一つ一つ段階をクリアして、最終的には事業化という流れになっていくのではないかと考えています。以上、市の進め方、考え方、WSの意見のとらえ方について、簡単ですが説明させていただきました。

F T : 質疑は後ほど承ります。もう一つの議論はWSに与えられている時間について気にしておられる方がいます。「重要な問題なので短い時間の中では決着しないのではないか」「そもそもこれまでどういう検討があってここに至っているのか」「もう少しちゃんと話をさせていただきたい」という意見がありました。まずはその必要性の議論も含めて、お応えいただきたいのですが、たくさん色々な問題があります。今日どこまで明らかにしていただけるかわかりませんが、これについて橋本さんと市からご説明をお願いします。

④ 前提条件の整理・確認

F T補：お手元の資料-4 を見ていただけますでしょうか。この前提条件整理・確認というものを皆さんに出していただいた付箋から今のように整理しましたが、このWSの中で少なくとも確認しておきたい事項は①から⑭までです。これは鎌倉市にお願いしたものです。時間が無い中でとりあえずキーワードだけ入れていただいた。順次、次回なりプログラムの反映にも影響してくるのでどんどん細かく充実していけるように改めてお願いしたい。入れていただいたキーワードで今日どこまで説明できるかわからないが、この後の作業にも影響するので整理をしてご説明をお願いします。

事務局：産業振興課の加藤です。まだキーワードしか皆さんにお伝えしていませんが、できる範囲で説明させていただきます。なお、説明の順序は都合上、前後します。まず「概要と経緯を正しく理解する」ということで①から③までありますが「①はじまりの背景の経緯は？」というところに五つの要点があります。一つ目として「漁港が必要な理由」は何か。ご承知のとおりこの鎌倉地域は港が無いので、砂浜から小さい船外機船で漁に出ています。通常、港があれば出入港が安定してできますが、それが無いために、非常な労力、安全性の低下、天候による出漁制限を受けているといった状況が続いています。そういった意味で条件的に不利だと考えています。先日の台風の時も坂ノ下の浜小屋が浸水等被害を受けています。平成20年の台風時の被害は甚大で被害額にすれば1千万円相当でした。そうしたことが度々起こっていることもあり、やはり安定した漁業活動のために必要ではないかと考えています。二つ目の「陳情(漁業者、地域住民)」、三つ目の「市議会」については、昭和28年の請願から計4回鎌倉漁協から陳情、このWSについての陳情、あわせて6件出ています。内容については漁協からは漁港整備促進の要望でした。細かい部分はまた紙面で配布したいと思います。四つ目の「漁対協」は、昭和54年の陳情後、昭和60年から始まっています。始まった経緯は、当時、国の漁港整備計画にのらないとその計画期間に造ることが一切できないという制度でした。それで市と関係機関と協議を重ねていましたが、事業化には至りませんでした。その大きな原因としては地域住民の合意はどうか、環境に与える影響調査はできているのか、等の課題の指示を受け、行政だけではなく市民を交えた協議会を設置するに至ったわけです。それから、五つ目として事業化及びその他「長期化の理由」ですが、昭和28年当時の記録では財政的な事情から見送り、昭和54年の陳情等、県関係機関との協議でも事業化に至らず、昭和63年以降、途中で腰越漁港の老朽化に伴う改修整備を優先したため、鎌倉漁港整備は検討していましたがなかなか事業化できませんでした。次の「②現在、何が、どの段階までいるのか？」については、漁港整備計画が進んでいるかということ、先ほどフローで少し説明しましたが、構想づくりの前段階で、皆さんからの意見をいただいているという段階です。まだ構想の素案フレームも決まっていません。皆さんのお考えを

聞いて整理していこうという段階です。この後のステップとしては構想を作り、基本計画になり、全体の基本設計をして事業化となりますが、それには長い時間がかかります。2、3年でできる話ではありません。例えば、震災の話が出ましたが、今年漁港の建設を決めて、国から予算をもらう、そういうスピードでできる事業ではありません。事業化に至るまでには、おそらく5年10年というスパンがかかるであろうと考えています。次に「③今後のスケジュールはどこまで決まっているのか？」ですが、このWSは年内に5回、予備として1回（来年早々）の計6回を予定しています。来年度以降については予算のこともあり、明言はできませんが、ただ、協議期間の短さの指摘もあったように、こちらでも危惧しているところですので、検討期間をもう少し取りたいとの要望は財政当局に伝えてあります。現計画ですが市には総合計画があって、その中では平成22年度に基本構想策定、平成24年度までに基本計画、平成25年度末までに基本設計というスケジュールとなっています。これは中期実施計画における、平成21年度から25年度までの5年間の工程です。来年度から27年度までの新しい後期実施計画では、平成25年度までに基本構想、基本設計までを予定としています。次に「制約条件を検討する」のうち「④すでに決まっていることは何か？」については、キーワードとして「総合計画」「都市マスタープラン」「漁港計画」の三つがあります。総合計画としては、事業名として「鎌倉地域の漁港計画」として位置づけられています。鎌倉市として各部門、地域別の街づくりの基本理念をとりまとめた都市マスタープランでは「(仮称)鎌倉漁港の整備の検討」となっています。次の漁港計画は、まだありません。基本構想から基本計画までできて、はじめて漁港計画と位置づけられるからです。続いて「⑤制約条件は何か？」は、キーワードから少し離れますが、公的な制約条件、例えば公有水面の埋め立ての可能性がどうしてもあります。その場合は神奈川県知事の埋立免許が必要です。もう一つ大きなハードルとしては、漁港区域指定を受けなければいけません。それができていません。漁港計画が策定されてからでないと漁港区域指定の申請ができません。それから「予算について」。通常建設費は国と県の交付金・補助金と市費で賄います。その負担割合は国が1/2、県が1/4、市が1/4となっています。交付金・補助金を使わないで整備することも可能ですが、現実的には市の財政負担が大きくなることから市民の理解を得ることが難しいと思うので、手続きを経て、交付金を活用することを考えています。次の「⑥計画は、最終的にいつ、誰によって、どのように決定されるのか？」については、今構想づくりの少し手前という段階です。最終的な判断は行政側が皆さんの意見を聞いたうえで検討していくというプロセスになります。ただし、それにかかる予算については、議会で承認された上で執行となります。「いつまでに」ということは、中期実施計画では平成25年度までしか決まっていますし、まだ先はわかりませんが、平成24年度末までには基本計画を策定していきたいと考えています。次の「⑦

鎌倉市が住民参加による話し合いの場として<ワークショップ>を取り入れたいと思った理由は何か?」の「これまでの手法」については、過去の漁対協の開催、内容の公開を経て、個別の要請による説明会を行っています。WSが「なぜ今なのか」については今後行政計画として意思決定していく中で当然地元住民の意向を聞いて反映させること、合意が前提となってきます。今後ステップを進めていくのに、その基となる基本構想の段階でそれをやらずに進めてしまうと、その後、必ず紛糾すると思います。始めにWSという手法で皆さんの直接の声を聞いていくということが必要であろうと考え、このWSを始めました。次の「⑧事業について、WS参加者はどれだけの情報や知識を持っているか?」については、先ほどお話しした部分は割愛しますが、漁対協を第1次、第2次、第3次と、計18回行い、かなり細かく、漁港の位置、漁港の規模、漁港の性格を中心に話し合ってきました。結論としてはWSの第2回の資料で「答申要旨」として載せているのでそちらをご覧くださいと思います。市議会での審議については、平成18年以降の第3次漁対協の開始前のポイントとなる市議会でのやり取りを紹介します。平成18年9月の市議会での一般質問で、鎌倉地域の漁港建設等について、第2次の漁対協終了後、具体的な進捗の質問がありました。第2次の漁対協からかなり時間が経過していることもあって、改めて漁対協を設置して、早急に検討を再開したい、と当時の市長が答弁いたしました。それを受けて第3次漁対協が始まりました。それから平成21年2月に鎌倉漁協から陳情がありました。これは建設に向けた諸手続きを進めてほしいとの内容でした。平成22年2月、新市長の初めての予算編成の時には鎌倉地域の漁港建設にかかる予算は漁対協の開催経費だけでしたが、これに対して市議会は少なくとも基本構想策定まではやるべきだ、とのことで修正予算が提出され可決されました。最近では9月の市議会でのこのWSに対する陳情とこのWSの運営についての陳情が出されています。以上が概要の説明です。

F T補：追々資料として提出いただけるので、今日は方向までということです。「⑧事業について、WS参加者はどれだけの情報や知識を持っているか?」に引き続き、皆さんの付箋を読むと、造ることが前提との思い込みとか、どこまでが真実なのか、情報が混在しているという印象です。皆さんの方がたくさん情報を持ってらっしゃるといこともわかりました。WSというのはゴールが決まっているわけではなく、プログラムの作成側も皆さんと同じスピードで走っている状態です。続く⑨⑩⑪、今持っている情報の中です。しかも、このメンバーで限られた時間・回数の中で一体誰に向けて何を発信できるのか、皆さん自身に決めていただきたいと思います。その提案をこの後の第2部でやっていただきたい。誰に対してどう伝えたら正しく伝わるのか、ということをご自身で確認していただきたいと思います。これはWSという手法そのものの限界という中で、どれだけ最大限の可能性を引き出せるかというのを皆さんに強いる作業なので、少しきついかもしれない。時間も今日で終わらないかもしれませ

ん。しかし一番大事なところだと思っているので、今日で終わらなければ次回もう少し時間をとらせていただきたいと思います。

次の疑問・提言に関して、WSのあり方はご指摘もいただいています。先ほど市から説明があったように来年度の予算要求も考えてくださっているようですが、6回の中でどこまで達成できるのか、このメンバーで全くできないことではないと考えています。できることはたくさんあると思っています。それを踏まえてメンバーとしての人選は5回目か6回目でまたもう一度皆さんに伺いたいと思います。ただ、このメンバーで残り4回のコンパクトな時間の中、できる限りのことは探っていきたいと思います。なので、疑問・提言と、先ほどの先生からの論点も残りの回のプログラムに取り込んでいきたいと思います。

資料4の右側に確認がありますが、最終的に皆さんに合意、理解ができていないか、確認をとりたいのでこれについては途中であるにご了承いただきたいと思います。その確認を含め、また斎藤先生にお願いしたいと思えます。

F T : 今、市から説明がありましたが、今後の質疑の中で確認もできます。ただ、限られた時間の中では十分理解できないこともあります。それは随時説明していただけると考えています。

漁港建設をめぐる意思決定プロセスはどうなっているのか、という話ですが、このWSでどういうまとめ方をするか。一番大きな問題は、このWSというのは漁港建設の是非を問う場なのかどうか。賛成か反対かここで問えるのかどうかです。

WSの見解が実際の市政に直接反映されるという保証がなければその決議も意味が無いのです。今のところ、構想のその前の段階だからはっきりしない不確定要素がかなり多い。もう一つは、もし決定する場として、その決定が意味あるものとするならば、WSの構成メンバーは公平に選定しなければなりません。そうすると偏っているのでは、という指摘も意味を持てきます。

そうすると、このWSで何ができるのか、ということを変えて考えなければいけません。WS自体が鎌倉市民全体の総意の中で位置づけられているわけでもない。そういう限界をこのWSは持っている。このメンバーで取り組むことができ、かつ意味のあることは何か、を皆さんに改めて考えていただきたいと思います。そのことについて今回はこの論点という皆さんに共通意識を持っていただかないと議論は混迷を深め、毎回騒然とした状態で終わってしまうということになる。何とかこういうことははっきりさせよう、という点を皆さんに決めていただきたいと思います。これはF Tの立場を外れて一個人で申し上げれば、心配なことがあります。賛成反対を主張することは簡単ですが、どちらかの意見が支持された場合、支持されなかった側は大きな不満を持つ。そのまま進めば市民間の溝が深くなる。その状態が続けば市にとって良いことなのでしょうか。このWSによって不仲が継続していく状況を作ってしまうのはいけないので

はないか、という心配が私にはあります。そこで疑問点として、仮に漁港建設が実施されたら「建設に反対だった人々はなぜ反対したのか、どんな不利益があると考えたのか」ということは無視されてしまうのではないかと、仮に実施されなかったら、これまで不便を感じていた人達にはこれからも我慢を強いるのか。それはWSの問題ではなく、市なり専門家の検討であるといつて良いのか。するとこのWSをこのメンバーで取り組めることは何かというと、漁港建設をめぐる市の今後の判断に具体的な付帯条件を付けることじゃないかと思っています。つまり、是非ではなく、今後事業の実施あり、なしによって残される問題、その問題の克服、緩和、あるいは不利益を被る人への代替的なメリットを与える方法の検討、等を我々は考えることができないだろうか。持論を押し通したとすると敵を作ってしまう。反対側の立場にも立って問題を考えないと、双方の相互理解のないまま話し合っても虚しい。話し合ってどうやったら新しい一步を踏み出せるか、色々な角度から考えるために皆さんがいると考えます。つまり、このWSが終わった後に不愉快な思いが残って鎌倉市民を二分してしまう、という事態だけは私も関わる以上は避けたいのです。つまりここで何か決めても問題が起こるし、決めたとしても市政がそれをそのとおりに実現するかもまだ不確定です。何が議論できるかと言ったら、では一方が決まったら残された不利益をどうカバーしていくか、今のうちからアイデアを出し合ってそれを市に突きつけて、どちらを決定するにしてもこのことを忘れるな、ということが我々にできることではないかと思っています。

ですので、今後このWSで何をするのか、ということについて後半で話し合っていたいただきたいが、第2部の前に今までの説明に対する質問等をお受けしたいと思います。

参加者：あなたの話では主語が漁港になっている。もうちょっとリングを広げて、ゾーンの中の一つのアイテムとして漁港をとらえていただきたい。これは先の話だが、やはり震災後情勢は大きく変わっている。どこの公も金がない。あるのは民である。

参加者：まず市に確認したいのですが、漁港を造ることになった場合に、実際にそれを発注する場合の施主は市ですか。

事務局：事業主体は鎌倉市です。

参加者：漁港の建設問題の検討の過程で漁対協が必要になる。それで先ほど漁対協ができたと言っていたがどういうことでしょうか。

事務局：漁対協ができた経緯は、古い話です。おそらく当時は漁港の長期計画が認められないと、向こう5年10年間はその地域には漁港が整備できない制度があり、事前の打ち合わせの中で住民問題や環境問題等で申請できない、という状態がどうも続いていたようです。

鎌倉の漁港について事業採択を受けていくプロセスの一つとして市だけでなく、市民を交えた協議会の必要性から組織されて検討されてきました。

参加者：そういうプロセスの問題ではない。例えば、市が重要事項を決める際にいきなり市議会に諮るのではなく、一般的に前段階に協議会・審議会を作る、そこで重要なのは調査、検討、合議である。これをした後、市長や所轄責任者に対しての答申がある。先ほどの説明から、WSというのは協議会の中の調査機関という位置づけなのではないでしょうか。FTの説明の(2)の1の答えと理解したのだがそれで良いのでしょうか。

事務局：漁対協とWSとは切り離して考えて結構です。

参加者：このWSの検討結果というのは漁対協に提出されるのでしょうか。

事務局：漁対協は平成23年3月で解散しているので、組織自体はない状態です。

参加者：しかし、市が漁港建設の有無を決める過程においては、もう一度漁対協の審査を受けるのではないのですか。

事務局：漁対協は附属機関という位置づけではありません。都市計画審議会等のように市の附属機関として答申を受ける、それは行政決定の重要な要因を持ちますが、漁対協はそこまでの位置づけではなく、条例に基づいたものでもありません。漁港建設は市が協議会やWSも含めて総合的に判断します。

参加者：そうであれば、今このWSが漁対協と同じ位置づけと理解して良いのですか。

事務局：ちょっとニュアンスが違います。WSは協議会の部会とは違います。

参加者：(2)の問題というのはそれなのです。我々がまとめたものはどこに報告されるのか。先ほどの説明でも「誰に何を言うのかあなた達が決めてください」そんなことを我々に言われてもできません。私が市だったら、すでに漁対協が並行して開かれて、WSの意見は漁対協に調査という形で提出される。それを漁対協がまとめて市長に答申をする。こういうプロセスではないのでしょうか。それを確認しようというのが今の(1)の議論なのではないのですか。

事務局：そういうプロセスではありません。答申は漁対協から3月にいただいでいて、漁対協は終了しています。さらに市民の声を聞こうということで、全く別の位置づけでWSを開催しています。

参加者：それが決まっていなければ、今日のWSは閉会して、それを決めてから第3回を開いてほしい。

参加者：それは一理あるかもしれない。極端に言えば漁対協をもう一度作ったって良い。確かに今のままではWSが空中分解しかねない。今、先生が問題点を提示してそのとおりでと思ったが、経緯性が無いことをいつまでも言っていることになる。

参加者：今、質問されているのは手続きの問題ですよね。要するにモノができるかできないかを論議しているわけです。それが前提になっているかどうかも話していたが、WSはそういうことを論議する場ではないのではないのですか。論議すべき最大のメリットのある話題というのは、鎌倉市民にとって本当に漁港というものは必要なかどうか、それを論議する場ではないのですか。今までそれを論議した場がありません。プロセスや予算構成や、手続きの問題でずっと進

んできたことが、市民にとってまったく乖離した問題になっている理由ではないですか。WSがそういう位置づけであったかどうかは別として、この機会をもって漁業者だけではなく、鎌倉市民にとって漁港をつくるというのはどういうことなのか、ひいては鎌倉市民にとって漁業とはどういう位置づけを持ったものなのか、もっと話し合う良いチャンスじゃないですか。手続きの問題は私達素人にはよくわかりません。それを話し合うことの是非も含めてWSでの論議にはそぐわないのではないのでしょうか。

参加者：今の方の意見に賛成ですが、ここで最終的に賛成とか反対とか決めて、それがどうフィードバックされるのか非常に疑問です。それ以前いきなりどう報告するのかと言われても、何も意識がありません。前提条件として出てきたのは、数年前の台風で1千万円程度の被害が出た、こういう具体的なこと「今の漁業がどうなのか」「どういう問題があってどういう漁港を造りたいのか」が全然見えてこない。「鎌倉地域の漁業の規模は」「水揚げは」「腰越とか小坪とかは」「なぜそっちで駄目なのか」を含めて教えていただきたい。船を出すのが苦労だからと言われても、体を使って仕事をする人はいっぱいいるわけです。もっとどれだけ大変なのか、改善できるのか、具体的に私たちはまず勉強しないと何も答えを出せません。先ほど、市が提示したこういう資料をもっとほしい。これでは全然足りない。考えがまとまらない。きちんとした勉強をまず皆ができるようにしていただきたい。色々な情報がある中で、はじめて色々な良いアイデアが出てくると思います。要するにもっと前提の情報を提供していただきたい。

参加者：今の意見は漁業者の観点からの話ですが、視点を変えてみると、漁港が無いので海岸に浜小屋を建ててそこから船を出している。漁業者には大変失礼ですが、この浜小屋が大変景観を悪くしていると私は感じています。実際、近隣住民も台風の時はあれが飛んでくるのではないかと不安に感じています。漁港ができることによって海岸がきれいになって景観も良くなり観光面も良くなる。全てに改善されていく目標があるのならば、とある程度視点を変えて考えれば、漁獲高とかではなく、広い範囲で改善の余地があるのではないかと私は思います。

参加者：論点が漁港建設になっているが、私は鎌倉漁業協同組合の組合員です。我々が漁港はどうしてほしいかを述べて良いでしょうか。では簡単に。

前回の資料「鎌倉地域の漁業」の中で、資料1-3に写真が載っています。その写真を見てもらうとわかるように、台風時には浜小屋の前まで波が来ます。避難するために歩道に船を上げます。以前は地域住民も理解してくれていましたが、最近は歩道に船を上げると警察に通報されます。台風の最中に船を戻せば流されるに決まっているのに。行き場が無いのです。漁港建設というのも一つの考えとしてあります。

参加者：そういう意見、説明が出る前に、要するにWSの結果は誰がどのように利用

するのですか。

事務局：先ほどの資料-3のフローのように漁対協があって、WS、それから市民からの意見。漁対協は終わっている所以に資料としてあります。それからこのWS、その他の市民の意見、これら全てを市としては整理をして、その中から構想案を上げていくというように私どもは考えています。

参加者：つまり、漁港を建設するかしないかの討議を始めるということではなくて、まったく関係なしに市のルーチンワークの中で、市民や漁港を造ってほしい方々の色々な意見を集める。それをあくまでも市が単なる参考資料にしよう、こういう目的か。

参加者：WSの目的というのは、市が主体となって、市が何か結論を得て、ということではないと思う。私もはじめてこういう場に出たが、WSというのは様々な立場の人が無作為に集まって、話ができる場である。前回やったWSの中でも、私は漁業者だが、話を聞きに来てくれたりした。そういうことは今までなかった。造りたい人が一方的にどういう手続きを踏むかということしか行われてこなかった。それに対してもっと広範な色々な意見を聞いて、理解を深めて行こうという意味で、WSがあるのではないかと思っている。だから私は何か結論が出て出なくても良いと思っている。それを市に求めるのには荷が重すぎると思う。WSの場を作っていただいたことには感謝しているし、その場をこのメンバーがどう利用していくか、ということに尽きるのではないか。

参加者：まったくそのとおり。ここで何か結論を得ようとはまったく考えていない。私としては漁港建設をすべきかすべきでないか、今現在、意見を持っていない。皆さんの意見を聞きたいからメンバーにエントリーした。ところが、前回非常に不愉快な思いをした。WSの目的がわからなくなった。だから、今日疑問を出した。最初の市の説明からは審議会のようなと思ったが、今聞いてみたらそうではないという。それであれば市の担当課、単に彼らの調査の資料を得たいのか。それが駄目とは言っていない。答えられないから明確にしてほしいと言った。我々の意見がどう利用されるのかそれが知りたいだけである。

参加者：市の説明が長いというか、端的に言ってここでは参考意見を聞くというヒアリングの場であるのか。そのように性格付けしてもらえればわかりやすい。

事務局：産業振興課長の花上と申します。端的に言うと図にあるように並列な位置づけと考えています。だから、参考意見ということで括弧することもできますが、重要な参考意見、貴重な参考意見として結果を受け止めるつもりでいます。

参加者：○か×か、結論はなしで言うと、○の意見、×の意見が得られれば市としてはWSの目的は達せられる、ということか。

事務局：先ほどから説明しているように、この場は結論を出す場ではありません。色々な意見が出る。その一つ一つが市としては必要な意見と捉えているので、そのようにご理解いただきたいと思います。

参加者：今の意見は非常に重要な観点だと思う。結局議論が終わって市側でねじ曲げ

られてしまうのではないかという不安がすごくある。先ほど私が述べた前提の話だが、2つ出た。まず、景観の問題、それから船の避難場所の問題、実際に問題点が出てきた。漁港を造れば当然環境の問題がある。何が解決したい要件なのかははっきり項目として出して、それが金額的なり、何なりの具体的にどうという問題なのかあげて、そこからでないで議論が始まらない。

F T : お話いただいたことについて振り返ってみると、細かい情報がほしい、それもあるが、進め方についての議論がありました。その議論を前提を持ってやっていきたい。行政対市民という構造ではなく、立場の違う人々が賛成反対、何故賛成か何故反対か、その論拠も含めて情報化して、このWSで何をアウトプットとして出していくか、考えを述べていただきたい。

参加者 : (2) の問題は今の答えで解決ということか。

F T : はい。ただ、このまま議論が進んでいった時に、やはり市長に渡したい、ということになればそれも可能だと思う。行政の担当者を通してお願いすることもできる。だからまずは、これがどう使われるのかも含めて議論していただきたい。先ほど述べたが、議決事項があつてすぐ反映させるということではないので、それだけはお間違えなく。その条件の上で今後、ほしい情報とかWSの方向とか意見交換して、それぞれ書いていただきたいのでよろしいでしょうか。

参加者 : 何度も言いますが、いきなり漁港を造るという話、前提の情報が足りなすぎる。被害額なり具体的に出していただきたい。

F T : それは次回までに。

参加者 : 漁港の建設による被害もありますが、逆に反対の立場の論拠、何故反対なのか、メリット・デメリットも。あと漁業は一つの文化であるし文化的な側面とか、消費者の意見もあります。食の安全とか。漁業ばかりでなく、周辺全般的に集めたほうが良いのではないですか。

F T : そのことをテーブルごとに情報、議論の進め方等要望を話し合っていたきたい。その中で次以降のプログラムに反映されるので、是非それをしていただきたい。

参加者 : 先ほどから述べているように、なぜ漁港が必要なのか、その前提がわからないと反対意見も出しようがありません。例えば、初回の陳情内容とか具体的な漁港建設の要望を提示してこれについての意見を募るようにしていただきたい。

F T : それは次回に全部出せるかどうかかわからないが、要点にするということはどうでしょうか。今ここで出せとなると、そこでストップしてしまうので。そういうことも含めてグループで、こういう情報もほしいとか、何故必要なか等を議論しながら、このWSの方向づけの賛助にしたいと思います。

参加者 : 良いですよ。

F T : よろしく申し上げます。

F T補：作ったプログラムの中で、今日が本当の山場だと思います。次の作業についても、結論には至らないかもしれませんが、今日は資料の内容も濃いいし、それを理解するだけでも労力がいると思います。ただ残り時間も少ないですが、今の説明してもらったものを理解するということと、私達が今できること、限界はあるが可能性を探っていただけたらと思います。

第2部

⑤ ワークショップでの達成目標の明確化

「ワークショップでの達成目標の明確化」というテーマでGWを行う予定でしたが、必ずしもテーマに沿ったGWにはなりませんでした。

⑥ グループ作業の結果発表と意見交換

【赤グループ】

まず、出たのはやはりWSの方向についての意見、漁業者から漁港を造るメリットの話です。今回、賛成反対は問うな、と言いながら、参加者自身で方向を考えろ、とは投げ過ぎなのではないでしょうか。これならヒアリングをするなり、アンケートの方が効率的なのではないですか。観光や漁業体験として市民に提供されるメリットは大きいです。少なくとも次回は情報を郵送なりして、事前にもっと情報を与えるべきだと思います。

【緑グループ】

達成目標の順位は付けられませんでした。重要だと思われたものは、「漁業者とそれ以外の意見が対立する部分を整理したい」「様々な意見、できるだけ幅広い意見を集めたい」「様々な違う立場を知り合う機会を設けたい」「勉強の機会の場にしたい」「漁港を造るという狙いを利益面で捉えるだけでなく、地域にとってのメリットを考えることも必要ではないか」ということでした。

【青グループ】

達成目標として出たのは、「思いつく限りのアイデアを出して議論したい」「問題の所在がどこにあるのかを明らかにしたい」「他の事例などから参考になる部分を見つけたい」など達成目標として抽出はしましたが、時間が足りなくて、何が達成目標として必要なか絞りきることができませんでした。他に得られた意見としては「市やFTが伝えるべきこととして、WSの記録をできるだけ早く反映してほしい」ということです。「市に任せるのは不安」という意見も出ましたが、やはり最終的には議事録が必要であるということと、色々な問題が出ましたが、それらを食、産業、防災、漁業等、それぞれのレベルで階層にしてまとめることが今後必要になってくるとの意見が出ました。

【橙グループ】

「やはり、色々な立場で色々な意見を集めるのが望ましいので、お互いを知りあう機会を作りたい」という意見でまとまりました。

【傍聴者グループ1】

達成目標としては決まっていますが「漁業関係者に関する情報、漁港を建設するメリット・デメリットに関する情報が少ない」「それをまとまった形でほしい」そういった意見が多かったです。

【傍聴者グループ2】

話の途中でやはり漁業者の声が聞きたいということで、急遽漁業者に入っていました。「問題の所在はそもそもどこにあるのか、をまず整理したい」「色々な立場、考え方を理解したい」「できるだけ幅広い意見をつめたい」「具体的に意見が対立する部分を整理したい」個々に意見はありましたが、それを話し合ってからでないと、そんな所まで今結論は出せないという話でした。とにかくお互いの話を知りたい、理解したいという所から進めたいという状況でした。

F T : 前回の状況を考えると、2部まで達成できないと考えていましたが、入り口まで来られただけでもラッキーだと思っています。ただ、最終的に色々な意見が出て、一つにまとまるとは考えていませんが、これをどう整理してどう伝えるかは、また次回で行います。今日の情報の整理も含めて、また新しい情報も出てくると思います。

次は二週間後なので、記憶も新しいまま入れるかと思っています。次また皆さんもどう進めるか戦略もあるかと思っていますので、また相互にぶつければ良いと思っています。

終わりに

事務局から次回開催予定、閉会挨拶を行いました。